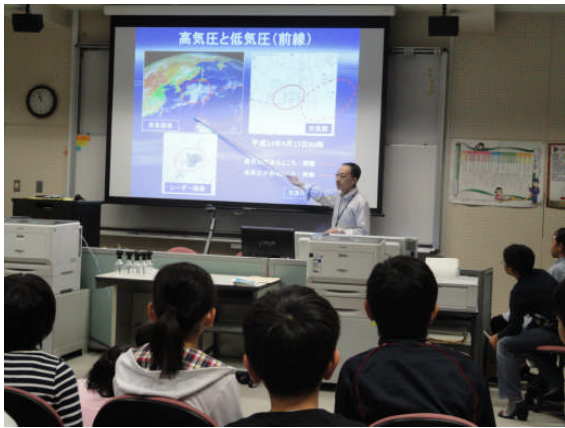


「地域の力を学校へ」推進事業の実践例（平成24年度実施分）



テーマ
Theme

「天気予報と天気の利用」

学校・園名
School name

彦根市立城西小学校（5年生）

講師等
Lecturer etc.

彦根地方気象台

実施日
Date

平成24年10月18日

教科等
Subject etc.

理科

授業
Class

講師の方は、「天気を予報するには」「雲の種類と天気」「天気予報の利用」などのお話をわかりやすくしてくださいました。

天気は、各地で観測されたデータが気象庁に集められ、スーパーコンピュータが予報しますが、最後は予報官（人間）が分析します。理科の時間に習う「天気（雲）が西から東へ移り変わる」ことなどは、天気予報の基本を学んでいることになり、その様子を気象衛星「ひまわり7号」からの動画で見せていただくととてもよく分かりました。そして、天気に関わりが大きいのが“雲”ですが、10種類ある中で、一番注意すべき雲は「積乱雲」です。雨を沢山含んだ積乱雲は台風の元であり、激しい気象現象である竜巻・雷・強い雨が発生すると、災害をもたらすこともあります。「出かける前に最新の天気予報や雷注意報をチェックしたり、天気が変わってきたら早めに建物などの安全な場所へ避難しましょう。」など、身を安全に守るために大切なことなども教えてくださいました。



感想
Impression

児童より Impression from Children

- わかったことは、高気圧と低気圧のこと、天気予報にはいろいろな種類があること、雲が10種類あって、その中の積乱雲が一番あぶないということ。また、雲はつくれるということです。
- 積乱雲（入道雲）の下で竜巻・雷・強い雨が発生すること、竜巻・雷・強い雨の被害になると、どうすれば自分の体を守れるかなど、たくさんのことを教えてくださいました。しっかり行動をしていこうと思います。
- 今日、初めて雲をつくりました。楽しい実験でした。空気を入れていきふたを開けると、ものすごい音が鳴ったのでびっくりしました。雲をさわってみることができたのでうれしかったです。
- 積乱雲は、1時間という短い時間の中で、ものすごい雨を降らすことがあることも新たに分かりました。雲の勉強や天気の変化の勉強を、たくさんの方に生かしていけるようにしたいです。
- 天気予報はコンピュータの知恵と人の知識でできていたことなどを知らなかったのでびっくりしました。気象衛星から空を見ると、雲は西から東へ動いていること、台風は南から雲が合わさってできていることがよく分かりました。偏西風や地球がまわっていることと関係していることを知りました。生活する時、雲で天気を予報することができるので、それを生かして自分で天気を予報してみたいです。

学校より Impression from school

理科の単元内容に合致したお話をしていただき、学習の復習・まとめとすることができました。さらに、少し発展した雲や台風のお話、防災という観点からの雷・竜巻・洪水などのお話をしていただき、被害に遭わないようにすることへの意識付けをすることができました。児童は、雲の種類や動きから天気を予想しようという気持ちにより強くもつことができ、また、天気の変化を意識して生活しようという気持ちになったようです。

今回は、まとめの時期に来ていただきましたが、導入でのお話をしていただくことが、単元の学習の動機付けとなることも考えられるので、教科学習の進度と、依頼する内容を検討し、早い段階での計画と依頼が必要です。今回、防災という観点への発展を含めた意図を汲んだメニューを快く引き受けくださり、ありがたかったです。

講師の方より Impression from lecturer

現在、気象庁が「主体的に行動する態度を育成する防災教育」を推進しています。今回、先生から「防災意識を高められるようにしたい」というご希望がありましたので、その内容を盛り込みました。授業終了後、先生から「子どもたちの話を聞く様子がいつもと違いますし、防災への意識を身近に持てるようになりました。」と、感想を聞かせていただきました。授業を受けた子どもたちの意見や感想を聞くことができれば、さらに次回への参考になると考えています。